

熊本県立八代中学校 令和元年度(2019年度)学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>「平成31年度(2019年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を基盤とした本校の綱領である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誠実にして真理を愛する」 To love truth, being sincere. ・「自律を旨として協和を重んずる」 To respect harmony, being self-determined. ・「闊達にして進取の氣象を尚ぶ」 To develop a spirit of enterprise, being broad-minded. <p>を教育理念の根底におき、生徒の知性と品性、豊かな感性と闊達な行動力を育むとともにグローバルな視野を切り拓く教育を実践する。</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>ア グローバル人材育成プログラムの更なる充実(知の触発プログラム・アクションプログラム等)</p> <p>イ 新学習指導要領を踏まえた指導方法の実践と更なる改善(主体的・対話的で深い学び・ICT機器の活用)</p> <p>ウ 学校の魅力向上と発信の充実</p> <p>エ 中高一貫6ヶ年ランドデザインの完遂</p>
--

3 自己評価総括表		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	グローバルな人材の育成	◇グローバルマインド並びにグローバルスキルを身に付けるための基礎力養成	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的なコミュニケーション能力育成のために、学校設定科目「対話力」を効果的に実施する。 ○各種ボランティア活動への参加者年間延べ150名以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NIE、ディベート、MISE、ビブリオバトル、知の触発等の活動を充実させ、言語活用能力やコミュニケーション能力の伸長を図る。 ・活動の最新の様子について、HPで常に公開する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・対話力の時間に語彙・読解力検定の代わりにLiteras論理言語力検定の学習に取り組み、論理的思考力を育成した。また、各種ボランティア活動には、English Campの参加が少なく70名の参加となった。 ・HPで学校の活動について4月から12月まで計44回更新した。
	発信力の強化	◇中高一貫ランドデザイン再設計	<ul style="list-style-type: none"> ○より質の高い中高一貫校としての教育課程を編成する。 ○各教科が6年間に渡る教科指導の流れを示したランドデザインを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「対話力」についてより効果的な実施という観点から見直し、内容を精選する。 ・グローバル改革推進部を中心にランドデザインを検討し完成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中3で高校数学Iや即興型英語ディベートに取り組んでいた。英検対策では、学年ごとではなく、それぞれ受検する級ごとにクラス分けを行った。3年のステップアップセミナーでは高校と連携し、接続を意識した授業を行った。 ・本校の教育目標やこれまで取り組んできた中高6か年の教育活動等を取り纏めたランドデザインを作成し、HP等で発信することができた。
学力向上	教師の指導力向上	◇アクティブラーニングやICTを活用した、学力の3要素を踏まえた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒による授業評価において各教科のアクティブラーニング、ICT活用、学力の3要素を踏まえた授業実践についての肯定的評価が70%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上のため、各種研修会への参加やスーパーティーチャーの指導を仰ぐ機会を提供する。 ・生徒による授業評価を年2回実施する。 ・ICT活用やアクティブラーニングに取り組んだ研究授業を各教科年2回実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価で「授業でアクティブラーニングが行われている」の項目に肯定的回答した生徒の割合は91.8%でよくあてはまると答えた割合が上昇した。 ・「学力を伸ばす工夫を行っている」の項目は昨年より0.5ポイント上昇し96.5%だったが、まだ授業改善の余地は職員のアンケート結果からもあると考えられる。
	生徒の自発的な学習の促進	◇予習→授業→復習のサイクルの確立及び教科等の学習の統合、転用、活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○学年ごとの目標学習時間を設定し、60%以上の生徒が目標を達成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年における適切な目標学習時間を再検討する。 ・年3回、期末考査前に宅習時間調査を実施して家庭学習、読書等の指導に活用する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・予習→授業→復習の学習サイクルは大半の生徒が確立しているが、宅習時間調査を実施した結果、具体的目標を達成した学年は、1学年のみであった。学年とも連携して、目標達成に近づけたい。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
キャリア教育(進路指導)	進路目標の明確化と大学入試新テストに対応できる学力を身に付けさせる指導	◇6年間を見通す進路指導グランドデザインの完成	○大学入試新テストを受ける生徒に求められる学力を育成するための、6年間の指導方針を完成する。	・様々な自己研鑽や社会貢献活動を通して、自己の進路を考えさせるための情報提供を行う。	B	・高校進路部と連携し、随時進路情報交換を行った。学力検討会を2回実施し、生徒の実態や教科の分析、成果と課題、今後の手立てを議論し、指導方針の共通化を図った。 ・グランドデザインにおける進路指導面での詳細は作成途中であり、完成に向けた作業の継続が必要である。
	生徒の進路観、職業観の育成	◇個人の活動体験の活動体験データをポートフォリオ形式で蓄積	○社会と関わり、社会の内包する様々な課題に気づかせ、将来の学びに触れる機会を提供する。	・ポートフォリオ形式によるデータ管理の指導と、各種の体験活動や講演会など、他の部署と協力して実施する。	C	・高校進路部と連携し、東大合格者講話、大学教授招聘事業、(東京大学訪問は台風のため中止)八高ガイダンス等を実施し、志を高く持ち努力する生徒の育成を図った。 ・グローバル改革推進部と連携し、電子データによるポートフォリオ作成のためにClassiをより積極的に活用させる必要がある。
生徒指導	自由と規律に基づく自律的な行動	◇きまり・心得遵守 ◇観察と情報共有 ◇率先垂範	○5分前行動、挨拶の励行、服装・頭髪の整備を自ら行うことができる生徒を育成する。 ○生徒情報の共有及び学校からの情報発信を行う。	・年間8回整容指導を実施する。 ・朝の登校指導を利用し、服装の整備、時間厳守、挨拶を指導する。 ・教員同士及び教員と保護者との情報交換を密に行う。	B	・年間8回の整容指導を実施したが、複数回指導を受ける生徒が数名いた。 ・問題行動、校則・心得違反、交通事故などが発生しているが、保護者と密な情報交換をしながら、全職員で連携し細やかに対応できている。
	自治的活動の推進	◇自治会活動の場面設定 ◇系統的・組織的指導	○各部会の部長を中心に年間計画に沿った月ごとの目標と具体的な活動内容を設定し、全校生徒が自治会活動に参加できる体制をつくる。	・時節や行事等に応じた達成可能な目標を設定する。 ・あいさつ運動やボランティア活動を積極的に推進する。 ・生徒自治会執行部及び部長によるミーティングを月1回実施する。	A	・月初めに生徒自治会執行部及び部長によるミーティングを実施し、毎月の目標を設定し、各部で自主的・自発的な活動を行うことができた。 ・あいさつ運動や地域の清掃ボランティア活動など定期的に実施することができた。
人権教育の推進	人権問題の正しい認識と差別をなくす実践力の育成	◇地域の実状を踏まえた人権意識の向上 ◇実践力を高めるための中高一貫6年間を見通した各学年の目標設定と取組	○部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消に取り組む生徒を育成する。 ○職員一人一人が人権問題に関する基本的認識を確立し、人権教育を推進する。	・人権部落問題学習を各学年ごとに年1回実施する。 ・校内人権集会を年2回実施する。 ・地域主催の人権同和教育研究集会(原則全員)や現地研修会(新転任者及び希望者)に参加する。	A	・中高連携して各学年ごとに計画し、1学期はハンセン病問題、水俣病問題、男女共同参画社会に関する学習を行った。また、2学期は自分を語る、職業について考える、差別の歴史をテーマに人権学習に取り組んだ。 ・人権集会では、差別の構造についての認識を深めた。 ・八代市の人権集会や現地研修会に参加し、地域の人権部落問題について深く学び、自らの実践を振り返った。
	生徒が的確な教育上の特別支援を受けられる体制の整備	◇障がいの有無や個々の違いを認識してお互いを支え合い、すべての生徒が生き生きとした学校生活を送るための取組	○支援を要する生徒の実態把握と共通理解に努める。 ○個別の支援計画を立てるとともに、予防的な指導及び支援の充実を図る。	・授業時や学校生活の中でのきめ細やかな観察を通じた情報収集をもとに、生徒理解研修を年3回実施する。 ・必要に応じて人権教育部会や特別支援教育委員会を開き、個別の支援計画を立て、それに基づき支援する。	A	・人権教育部会で特別支援体制を見直し、職員への共通理解を図ると共に、朝会や学年会で生徒の情報交換を行い、丁寧な対応を実施した。 ・特別支援教育委員会を開き、個別の支援計画に応じた支援体制の充実を図った。また、生徒理解の職員研修を年2回開き、生徒一人一人の把握に努めた。
	命を大切にすることを育む指導	◇自他の生命を尊び、大切にしていこうとする態度の養成 ◇自らの在り方生き方を学び、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成	○すべての教員が学習活動において生徒の人権感覚を育む指導を行う。 ○社会貢献活動や自己研鑽活動をとおり、生命や自然に対する畏敬の念を高める。	・自らの教科において人権教育と関連する学習内容を確認するとともに、人権感覚を意識した学習指導を行う。 ・ボランティア活動や自己研鑽活動への積極的な参加を促す。	B	・「教科等の授業における人権教育の推進」に関する校内研修を実施し、人権教育を通じて育てたい資質、能力に通じ、教科内で協議し、多様性や自他を尊重する態度の育成を企図した授業の必要性を共有した。 ・授業や講話を通して、自分や周りの命を大切にすることを育む指導を行った。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
いじめの防止	いじめの予防と発生した際の早期発見と対応	◇いじめを未然に防ぐための予防的取組 ◇いじめの早期発見と早期対応	○日常の授業や面談を通して生徒の状況を的確に把握する。 ○定期的なアンケート調査により早期発見を行う。	・学期に1回アンケート調査を実施し、いじめの防止・早期発見に努める。 ・学期に1回いじめ防止対策委員会を開き、実態把握と早期発見・対応を行い、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。	B	・教育相談週間や学期に1回行う心のアンケートをもとに、聞き取りや対応を早期に行い、その経過をいじめ防止対策委員会で話し合い、生徒のおかれた状況をきめ細かく把握し、いじめの防止と対策に努めた。 ・教育相談や生徒理解研修を年2回実施し、生徒の情報を共有し、支援体制を再構築した。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	コミュニティ・スクールの活性化	◇地域とともにある学校づくり	○生徒の安全、安心を第一に考え、防災避難訓練を年に3回以上実施する。 ○八代市と学校施設の避難所利用に関する覚書を締結する。	・1学期に消防署指導の防災避難訓練を実施し、2学期以降地震を想定したシェイクアウト訓練等を行う。 ・災害時における本校の役割を検討し、地域との連携を図る。	A	・消防署指導による地震や火災発生時を想定した避難訓練やシェイクアウト訓練を実施することができた。また、2月の職員研修において災害時における引き渡し訓練、3月には津波を想定した校舎への避難訓練も実施予定である。 ・八代市と学校施設の避難所利用に関する覚書を締結した。

4 学校関係者評価

- 生徒の家庭学習時間の確保をさらに図るべきである。十分な時間が確保できていない要因として、スマートフォン、SNSの利用がある。家庭学習にもっと取り組むためにどうしたよいかについて、生徒自身に考えさせたり議論させてもいいのではないかと感じる。家庭での利用のルールを学校からさらに呼びかける必要がある。
- 本校のグローバル教育の取組は成果が出ていると思う。こうした活動に積極的に取り組む生徒は、エネルギーをもっているし、学力にも良い影響を与えているのではないかと感じる。これからも継続して行ってほしい。
- 本校生は社会的な活動をよくやっており、そうした活動を通じて礼儀正しさといった社会性も身に付けていっていると感じる。これからも文武両道の伝統を大切にしながら、生徒の成長のために幅広い活動に取り組ませてほしい。

5 総合評価

- 今年度の評価はAが4、Cが1、残りがBで、昨年度よりAが2項目増加し、全体的には問題点の改善が図られた。C評価の項目は「個人の活動体験の活動体験データをポートフォリオ形式で蓄積」であった。今後、キャリアパスポートの充実に向けて始動の改善を図っていく。
- 学校評価アンケートでは、生徒は自治会活動、学力を伸ばす工夫、いじめを防止する取組等が前年度よりも肯定的な評価が下降し、70%台となった。保護者からは生徒が学習に真剣に取り組んでいる以外の項目が90%以上肯定的な評価が得られた。
- 各部の取組は、概ね計画通りに実施することが出来ていた。

6 次年度への課題・改善方策

- 生徒の家庭学習の時間の確保について、各学年、各教科で引き続き、検討し、自発的学習習慣の確立を組織的に進めていく必要がある。
- 現行の様々な企画が生徒の現状に合っているかを常に検証して、変えていく必要があるものについては組織的に見直しを進めていく。
- さらに教職員の超過勤務の削減に向け、学校行事の精選を含めた業務の見直しも大きな課題である。